

第1回全体会議議事録

日時：平成18年11月10日（金）

場所：名古屋大学医学部鶴友会館

出席者：主任研究者（浜島信之）、三上春夫、田島和雄、徳留信寛、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、橋本修二、江口英孝、玉腰暁子、岡山 明、松井健志、川戸美由紀、織井優佳、小笹晃太郎、三谷智子、尾崎悦子、鈴木貞夫、桧垣靖樹、原めぐみ、喜多義邦、山本貴子、平木章夫、長谷川和美、浅井八多美、三須寧子、小山敦、片瀬史朗、鈴木ます美、中央事務局（若井建志、内藤真理子、西尾和子、石田喜子、岡田理恵子、増井香織、後藤康幸、服部秀美、増田まゆ子、水谷恵子） 計40名

○各コーホート研究実施グループからの報告

・研究協力者募集を開始しているコーホート研究実施グループ（鹿児島大学、佐賀大学、愛知県がんセンター、名古屋大学、滋賀医科大学）から、調査の進捗状況および各個研究について報告された。これに関連して下記の議論がなされた。

1) 住民基本台帳の閲覧について市町村の対応は様々であるが、全体に厳しくなっていること。

2) J-MICC研究の対象者年齢（35-69歳）は変更しない。ただし各コーホート研究実施グループ独自の研究で対象者年齢枠を拡大し、J-MICC研究対象外の者の調査票データ・生体試料とJ-MICC研究対象者のものを分別するのが困難な場合には、両者を名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学教室で同時に保管することが可能であること。

・研究協力者募集を今後開始する予定のコーホート研究実施グループ（千葉県がんセンター、徳島大学、名古屋市立大学、京都府立医科大学）から、調査の準備状況が報告された。これに関連して下記の議論がなされた。

1) 生体試料の分注を業者に委託する場合、調査実施会場と業者の営業所が近接していれば、迅速（3時間以内）かつ安価な処理が可能である。

2) 研究計画書等の検討について、社会的諸問題検討委員会→モニタリング委員会→各コーホート研究実施グループの施設内倫理審査委員会（IRB）→名古屋大学医学部倫理委員会、の順序を守る必要がある。この順序に則らず、コーホート研究実施グループのIRBでの研究計画承認後に、社会的諸問題検討委員会からの指摘があった場合には、指摘にもとづく研究計画の変更についてIRBに申請をお願いしたい。

○J-MICC研究を進める上で留意すべき重要事項の指摘

研究モニタリング委員会の岡山先生より、過去の3つのコホート研究の経験をふまえて、J-MICC研究を進めて行く上で留意すべき重要事項について、下記の指摘があった。

1) 研究費の継続、2) 発症登録台帳の整備、3) 研究デザインの整備、4) 市町村との協力関係の確保、5) 追跡調査が維持できるシステムの構築、6) 多面的なエンドポイントの設定、7) 次世代につながるシステムの構築。

○九州大学のJ-MICC連合としての参加

・古野先生より、九州大学で実施されているCOEコホート研究について説明があり、J-MICC連合として参加することが可能であることが報告された。同コホートは50-74歳の一般住民を対象に平成16年度からベースライン調査を開始しており、福岡市東区コホートが2万人、その他のコホートも含めると5万人を目標に参加者を募集しているとのことであった。

これを受けて主任研究者から、同コホート研究はJ-MICC連合への参加条件を満たすことから、同コホートをJ-MICC連合に加えることが提案され、検討した。

○研究モニタリング委員会・社会的諸問題検討委員会合同会議からの意見書

・主任研究者より、研究モニタリング委員会・社会的諸問題検討委員会合同会議から主任研究者あてのJ-MICC研究に関する意見書とそれに対する回答が説明され、回答について両委員会を持ち帰って検討することになった。